



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-10. 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



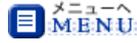
参照URL

学期	後期	曜日・校時	火1																		
開講期間																					
必修選択	選択	単位数	2.0																		
時間割コード	20120586020901	科目番号	05860209																		
授業科目名	●核兵器のない世界を目指して I (核兵器とは何か)																				
編集担当教員	ミテイ																				
授業担当教員名(科目責任者)	ミテイ																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ミテイ																				
科目分類	全学モジュール I 科目																				
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																		
教室	[教]32講義室																				
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部																				
担当教員Eメールアドレス																					
担当教員研究室																					
担当教員TEL																					
担当教員オフィスアワー																					
授業のねらい	このクラスでは、核兵器廃絶への道筋を考える際に不可欠な基礎知識として、核兵器の歴史と現状を総合的に俯瞰していきます。具体的には、核兵器とはいかなる特徴を持つ兵器か、世界の国々は核兵器をめぐってどのような政策をとってきたのか、いかなる軍備管理・軍縮努力が行われてきたのか(あるいはこなかったのか)といった点を学びます。																				
授業方法(学習指導法)	授業は基本的に配布資料に基づく講義形式ですが、リアクションペーパーなどを通じて、学生が主体的に自分の意見を組み立て、表現する機会を持てるようにします。また、授業の中では、国連文書や各国の外交政策文書など、国際社会のさまざまな場面で用いられた軍縮・軍備管理・安全保障に関する文書を読み解くことを通じて、学生一人一人が核兵器をめぐる最新の世界の動きに触れるとともに、そのダイナミズムを感じ取れるような授業を行います。受講人数にもよりますが、少人数グループに分かれてのディスカッションも予定します。																				
授業到達目標	核兵器をめぐる歴史と現状についての基本的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分の考えを説明できるようになることを期待します。																				
授業内容	<p>講義は、核兵器をめぐる現代世界の在り様、すなわち60年以上も続く核兵器を構造化した国際社会の実態を理解していくことから始めます。その具体的な検証として、まず広島・長崎への原爆投下の実際を含む核兵器の効果振り返りながら、核兵器がどのような特性を持つ兵器か、各国の安全保障政策においていかなる役割を担ってきたのかを考えていきます。米国、ロシア、フランス、イギリス、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮といった核兵器を保有する国々の実態はどのようなものか、そしてその背景にある論理は何かを知るとともに、日本をはじめとする「核の傘」に依存する国々の現状とその論理も見ていきます。核軍縮・軍備管理に関するさまざまな国際的な枠組みとその課題についても概観します。国際社会の努力の実例として、「非核兵器地帯」など、核兵器に依存しない安全保障の枠組みの実際を学びつつ、近年の核兵器のない世界に向けた具体的な動向についても学んでいきます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の進め方について 現代における核兵器——政治と軍事を俯瞰する(梅林宏道)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>核兵器の誕生とその特性——核時代の始まりから広島・長崎まで</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>米国とロシアにおける核兵器体制①冷戦時代</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>米国とロシアにおける核兵器体制②冷戦終結以降</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>フランス、中国、イギリス、インド、パキスタン、イスラエルの核兵器とその論理</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「核の傘」に依存する国々の論理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「核の傘」をめぐる日米関係の歴史と現状①(黒崎輝)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「核の傘」をめぐる日米関係の歴史と現状②(黒崎輝)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	授業の進め方について 現代における核兵器——政治と軍事を俯瞰する(梅林宏道)	2	核兵器の誕生とその特性——核時代の始まりから広島・長崎まで	3	米国とロシアにおける核兵器体制①冷戦時代	4	米国とロシアにおける核兵器体制②冷戦終結以降	5	フランス、中国、イギリス、インド、パキスタン、イスラエルの核兵器とその論理	6	「核の傘」に依存する国々の論理	7	「核の傘」をめぐる日米関係の歴史と現状①(黒崎輝)	8	「核の傘」をめぐる日米関係の歴史と現状②(黒崎輝)
回	内容																				
1	授業の進め方について 現代における核兵器——政治と軍事を俯瞰する(梅林宏道)																				
2	核兵器の誕生とその特性——核時代の始まりから広島・長崎まで																				
3	米国とロシアにおける核兵器体制①冷戦時代																				
4	米国とロシアにおける核兵器体制②冷戦終結以降																				
5	フランス、中国、イギリス、インド、パキスタン、イスラエルの核兵器とその論理																				
6	「核の傘」に依存する国々の論理																				
7	「核の傘」をめぐる日米関係の歴史と現状①(黒崎輝)																				
8	「核の傘」をめぐる日米関係の歴史と現状②(黒崎輝)																				

	9	核不拡散体制の現状と課題
	10	原子力平和利用をめぐる諸問題(イランの核問題を含む)
	11	宇宙の軍事化とミサイル防衛
	12	世界の非核兵器地帯
	13	北朝鮮の核問題——6か国協議と北東アジア非核兵器地帯
	14	「核兵器のない世界」に向けた世界の動き ——市民・NGOはどのような役割を担ってきたか
	15	まとめ:核兵器廃絶に向けて「私たちにできること」
	16	
キーワード	核兵器、軍備管理、軍縮、抑止	
教科書・教材・参考書	参考書: 梅林宏道『非核兵器地帯——核なき世界への道筋』(岩波書店)1,890円	
成績評価の方法・基準等	出席点および講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末のレポートが40%です。	
受講要件(履修条件)	全回出席が原則。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-10. 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	月2																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20120586021701	科目番号	05860217																																
授業科目名	●核兵器のない世界を目指して I (被ばくと社会)																																		
編集担当教員	三根 真理子																																		
授業担当教員名(科目責任者)	三根 真理子																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三根 真理子																																		
科目分類	全学モジュール I 科目																																		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																																
教室	[教]32講義室																																		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部																																		
担当教員Eメールアドレス	mmine@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	医学部原研2階原研情報室																																		
担当教員TEL	095-819-7127																																		
担当教員オフィスアワー	火曜日17:00~19:00																																		
授業のねらい	長崎における原爆被ばくの歴史、報道にみる社会への影響、被爆体験の継承の実際を基礎知識として学び、被爆体験の継承における問題点について考える力を養う。																																		
授業方法(学習指導法)	4人の講師がそれぞれの専門分野からみた被ばくと社会について解説する。学生はそれを受けて各自の考えを述べあい、まとめる。																																		
授業到達目標	①原爆被ばくの歴史を理解できる。 ②体験継承の歴史を理解できる。 ③報道における社会の動きを理解できる。 ④歴史や社会の動きを基礎知識として体験継承における問題点を考えることができる。																																		
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>(10/1) 三根真理子:原爆被ばくと社会の概要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(10/15) 奥野正太郎:原爆と歴史(1)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(10/22) 奥野正太郎:原爆と歴史(2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(10/29) 奥野正太郎:原爆と歴史(3)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>(11/5) 三根真理子:歴史に関するまとめ(学生の意見交換)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>(11/12) 高橋信雄:報道に見える被ばくと社会(1)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>(11/19) 高橋信雄:報道に見える被ばくと社会(2)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>(11/26) 高橋信雄:原爆は私を変えたー原爆記者25年の軌跡</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>(12/3) 三根真理子:報道に関するまとめ(学生の意見交換)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>(12/10) 三根真理子:被爆体験と人生</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>(12/17) 平野伸人:原被爆二世と原爆体験の継承</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>(1/7) 平野伸人:高校生の平和活動と原爆体験継承活動(1)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>(1/21) 平野伸人:高校生の平和活動と原爆体験継承活動(2)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>(1/28) 三根真理子:被爆体験継承に関するまとめ(学生の意見交換)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>(2/4) 三根真理子:まとめ(学生の意見交換)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	(10/1) 三根真理子:原爆被ばくと社会の概要	2	(10/15) 奥野正太郎:原爆と歴史(1)	3	(10/22) 奥野正太郎:原爆と歴史(2)	4	(10/29) 奥野正太郎:原爆と歴史(3)	5	(11/5) 三根真理子:歴史に関するまとめ(学生の意見交換)	6	(11/12) 高橋信雄:報道に見える被ばくと社会(1)	7	(11/19) 高橋信雄:報道に見える被ばくと社会(2)	8	(11/26) 高橋信雄:原爆は私を変えたー原爆記者25年の軌跡	9	(12/3) 三根真理子:報道に関するまとめ(学生の意見交換)	10	(12/10) 三根真理子:被爆体験と人生	11	(12/17) 平野伸人:原被爆二世と原爆体験の継承	12	(1/7) 平野伸人:高校生の平和活動と原爆体験継承活動(1)	13	(1/21) 平野伸人:高校生の平和活動と原爆体験継承活動(2)	14	(1/28) 三根真理子:被爆体験継承に関するまとめ(学生の意見交換)	15	(2/4) 三根真理子:まとめ(学生の意見交換)
回	内容																																		
1	(10/1) 三根真理子:原爆被ばくと社会の概要																																		
2	(10/15) 奥野正太郎:原爆と歴史(1)																																		
3	(10/22) 奥野正太郎:原爆と歴史(2)																																		
4	(10/29) 奥野正太郎:原爆と歴史(3)																																		
5	(11/5) 三根真理子:歴史に関するまとめ(学生の意見交換)																																		
6	(11/12) 高橋信雄:報道に見える被ばくと社会(1)																																		
7	(11/19) 高橋信雄:報道に見える被ばくと社会(2)																																		
8	(11/26) 高橋信雄:原爆は私を変えたー原爆記者25年の軌跡																																		
9	(12/3) 三根真理子:報道に関するまとめ(学生の意見交換)																																		
10	(12/10) 三根真理子:被爆体験と人生																																		
11	(12/17) 平野伸人:原被爆二世と原爆体験の継承																																		
12	(1/7) 平野伸人:高校生の平和活動と原爆体験継承活動(1)																																		
13	(1/21) 平野伸人:高校生の平和活動と原爆体験継承活動(2)																																		
14	(1/28) 三根真理子:被爆体験継承に関するまとめ(学生の意見交換)																																		
15	(2/4) 三根真理子:まとめ(学生の意見交換)																																		

	16
キーワード	原爆、報道、被ばく体験継承
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は紹介する。
成績評価の方法・基準等	全15回の課題レポートの平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。 なお、講義の順番は変更になる場合もある。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育_全学モジュール I-10. 核兵器のない世界を目指して**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586021301	科目番号	05860213
授業科目名	●核兵器のない世界を目指して I (国際社会と平和)		
編集担当教員	ミテイ		
授業担当教員名(科目責任者)	ミテイ		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	ミテイ		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]32講義室		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィサー			
授業のねらい	このクラスは、核兵器廃絶を考えるうえで、その背景となる国際社会の基本的な特徴とその分析方法の基礎を学び、学生一人一人が、国際社会の特徴を踏まえたうえで、自分なりに平和へ至る方向を探る姿勢を見出せるようになることを目的とします。		
授業方法(学習指導法)	受講生の人数にもよりますが、基本的には講義形式が主になるかと思えます。しかし、学生が受け身にならないように、リアクションペーパー等を用いて、できるだけ受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと考えています。 また、後半はテキストを使用しますが、授業の該当箇所のテキストを予習してくることを前提として、学生に意見を提出してもらおうつもりです。		
授業到達目標	具体的な到達目標としては、①国際社会を分析するための基本的な社会科学の知識と方法を身につける、②国際社会の特徴を理解する、そして③国際社会の特徴を踏まえたうえで、自分なりに平和のために必要なアプローチを構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
	前半は講義中心で、主に基礎的な国際社会の歴史や成り立ち、その特徴、および国際社会を把握、分析するための基本的なアプローチについて検討します。 その後、講義の後半部分では、テキストも利用しながら、現在の国際社会が現実を抱えている様々な問題を、「平和」という観点から考察し、最終的に国際社会を平和にするためには、何が求められているのかという問題を考えます。		
	回	内容	
	1	はじめに: 授業の進め方 ①国際社会とは何か ・「社会」の意味 ・「国際」の意味	
	2	②国際社会へのアプローチ ・「社会科学的」なアプローチ	
	3	③国際社会の歴史と成り立ち ・国際社会と国家	
	4	④国際社会と紛争(テキストp.1-p.23) ・戦争はなぜ無くならないのか	
	5	⑤国際社会と国連(テキストp.25-p.55) ・国連は無力なのか ・なぜ「世界政府」はできないのか	

授業内容	6	⑥ 平和のための法(テキストp.57-p.87) ・国際法とは何か	
	7	⑦ 様々な「平和」(テキストp.89-p.108) ・消極的平和とは何か ・積極的平和とは何か	
	8	⑧ 「正しい戦争」(テキストp.109-p.129) ・「正戦論」という主張 ・「武力制裁」という考え方 ・「人道的介入」とは何か	
	9	⑨ 平和と人権(テキストp.131-p.148) ・人権とは何か ・国際社会と人権 ・「市民社会」という挑戦	
	10	⑩ 核兵器と国際社会(テキストp.149-p.166) ・なぜ核兵器は無くならないのか	
	11	⑪ 「国家」の枠を超えて(テキストp.167-p.196) ・あきらめない人々	
	12	⑫ あなたの「隣人」とは(テキストp.197-p.214) ・平和のために何ができるか	
	13	⑬ 国際社会の中の自分 ・世界市民として	
	14	⑭ 現代に生きる私 ・国際社会の過去・現在・未来を考える ・今私にできること	
	15	⑮ まとめ	
	16	定期試験もしくはレポート	
	キーワード	国際社会、平和、紛争、安全保障	
	教科書・教材・参考書	テキスト 最上敏樹 『いま平和とは』 岩波書店 ￥760(購入してください) 参考書 大芝・藤原・山田編 『平和政策』 有斐閣 ジョセフ・ナイ 『国際紛争』 有斐閣 人間の安全保障委員会編 『安全保障の今日的課題』 朝日新聞社 犬養道子 『あなたに今できること』 中央公論社	
	成績評価の方法・基準等	出席点および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末の試験もしくはレポートが60%です。履修する学生が100名未満の場合はレポート、それ以上の場合は試験とします。	
	受講要件(履修条件)	予習を前提とするので、教科書は必須です。	
	本科目の位置づけ		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			

